娘太閤記操早引

初編

下

へ13
4449
3

婦人たちの産れぬ業

## 調経湯

一ふく六十銭

さんぜんさんどすぐれたる一切よ
もまぐ結ぶ人ふかくところふ功結ぶ
ものわやまるるもの　婦人ひとくぶらくと
ひづらみよりふつきのの結ぶるもの

## 芎藭水

一包に十八銭

## 芍薬

一包に十八銭

## 化粧布

一包に十八銭

箱入　四拾八銭

## はいのん香

東京　倉光堂政次郎

盛衰榮枯　娘太平記操早引下之巻

江戸　曲山人戯作

第四回

さてもあらまほしきはもぎ〜頃おいの方より秋をおくりまして
その過るさえせぎり〜ぶ徒ゆめ紀通人ゆまとばとぎと
そもらぬ魚をもくらいいのちー猪にをもまもくく
おいとんとやうよく記事さ人ものまりぶ子今まぐ抄ふ
おえうけやてお名もうまく空てハ居ぶ一産そるのハけぶ

さぞめくこりやァ頂くのでござおあせてろうそだろうぶ
ら一ッ献るよトさあ〳〵おつとりなさい「ヲヤさあうでございやすな
わんわまちがひやうくまるざいお延づきゆもありませんわ
今日ハマアふぎみ出掛ぐトあとを見八さんの出る合
せやうさあうあるいでぬまいヨトうまくさうわ「呑さん
おくぶりでありまるるうる上まるよ「ヤこまハおゆるる
お方のおさろづきでるる早そく頂戴といふところどゞマヅ
ひとつお押へさ「ヲヤくもうおいまめるさるくいやぐ子ュ

早引下ノ一

さあうあるる見八さんちよつとお合「ヲヤト奇妙ものだ
お合を待く居さあ〳〵天神さまちよつとお酌をおつぎぶ
お酒のハさあさん出掛ぐ相の山。繁さん呑さん伝吉さん。
おるるひあるるばるるんせ。お酒ハどんどん呑まるぐいおうんハ
ぶりめ丁度よう〳〵。ところで出青つまを喰。おさるるる
とも。酢の物ありとも又ハ天平出まる物でも出揚ぬ沢
わごぶりまァ〳〵也。養ハ蠣ケぐやレコノ折次第サのんぐく
りよう。碎ちやいやァ。お合ごアまトきまみ。こりよ呑でくりよう

ハア世独き〳〵無アく世まり〳〵の大きる参ごビ縣の遠
吼る大蛇のうるゆうご〻ヲホ〳〵夏八さんまとゝホおう〳〵
くるくいるゆく十三おうと〻くるくいエお床入りの文句の
ゆうご子〻ヲヤ音ゞつるるいよおり〳〵い夏八さん八まあ
人のまめゞ好物ごろう赤きおろう音をまハもごア夏ヲット
まゝ平世めん素話ひやどうめんハもるゆち昆ホ安垂〳〵
甘る汁をつけく世美弦あまッ叶ホ赫く〻る釋星孟
雲ホ痩ハまく〻光りを考ひぷろく〻の移光りハごろ

つき先生をさそひ出〳〵びちく〻もちてんどんと
来さうゆあんゞの勿論ゆ甚好く宜るの怪雲ゞ数
乳もちる子香〻ゞんゞ世大造ホあちこゞろこゞをきくの湯
者の森ゝとも咲とゆ夏〻ア さもゞ田吏独人ごろく小
子ゞんゞハ将物の君子ゞろちろぴりと一去世くも
俗語ハ用んゞ子ゞ世大八淫語さゞエモシ且招遠〻
高〻ゞ笑ハ魚物の大酒と赤く〻ゆろう一合でも二合
でも紅中ゞ咲ちやアおそまるの小男物ハ世ハまの辛ゞ

やとゝいふる且那様でゞ嗚呼女子と小人ハやゝ
ゞゝと陸人がいへいまるとてゞ遠くとノウ伝公さう
さゝぬゝと精をゆやアいまそまるとエてゝるゝ走ゆまらア
いゆくゝい アゝゝ 繁 ゝゝん 戦法ハまゞけいゆる空食
わゝるゝ来ゞゝゝゞ来るけりやアいゞヲヤさゆうサ
ゆくいゆゞゞゞいまゆヲヤ光りまゆよあゝちの方で
ゝゝいゆく 繁 そまゞやアいまく雷ハきゝひく ハイまとゆ
きゝゝひゞゞりまゞゝゝとやゝちゞをあゞりまゞヨ

早川下ノ三

ゝゝさう弱むゝゞゝゝう大勢ゆゝゝ伝もいそまるゆ
アあゝゝ絶くそまゝゆ雷公ゆんゞハまゝゝゝの伸ゆ内ゞ
ハニゝゆゞゝいゝゝゝまゆく天地のゆの玄蛟特ゞすの 繁 ハゝ
ゆんのゆゞゝんゞもゝ 嘲ゞの ヲ ゝゝ 見ハさんいまくハま
ゝゝゝゆあゆの夢くゞゞ雷さゆの吟きゝみ時ハ戦法ゆを
そんゆゆをいゆゝゝゞやアゆいゝとアレ遠くの方ゞゞゝゝ
ゆゝく ゝゝんのゝまくゝゝハゆくハナゝゝいゆ時ハさゝゞゆんゞ
伝公天さんサアゝゝ 繁ぎ 男せゝゝ アゝゝいゆゆゝ 猫

天社あらたなる
神かぜ
おすいはせ
うくはるのうち

を一疋ずつ出すとんだうをつく俗物めらの如耳を先
まづ三味せんを且那ナンノ今日参こみせんを
ぺこつらせるのハどんと来ると三弦の音合ごとの
ごつこふをつく稽つくさえ出るアラ成程そこまあ見ぶ
こもありつそんをうマアア酒ゆでも参うコウ吉公どうぐらう
一ト滴来やうめ「ヨウサチ」いづまこうりやせうぐまごと来ル
ふりやア来ると「ア」みまちやアマアハ日ハ後日嫁のごう
「ヘンチ」ものさうでもあり「ホイ」そのハ来ちうハ来



来ル「ア」ハ三ハさんいまちとハ元来ごこ子ごーやア
あんごろ来ると「ナニ」来ると「ア」ハ
来ぬごあんぞハあるんゆまちとあちやア出る「どうぐ」子
いつそ猪さるぐ来りくるよアイタ〳〵「そりやア」こまつこと
ものごやつぱり墨きのせぐ特病でも殺んゆまちとうのご
らう何ハーていこりのう「アイタ〳〵」ものうどうせう悪く
痛んで来てきまぐ肉までハるがあるろ子「どう〳〵」てまぐ
肉までハよつぱどあり来「ア」「さう〳〵」てハてどうもゆう

こりゃア大変ざマア細帯でえ
こむ所をあつらりのるぶい
いてそんぶる時へあるりぶる
ぶの長八らうそくの芯を切ると
をうづめる
「ヲヽト承知ヲキ〳〵らうそくぶり
つとコウ吉公付替る蝋燭ハどこにある
「ナニらうそくぶとそこ
ゆやアぶぜへませんぶへそれ
まてく「内へぜくツイてまも
まてくきまし「そ持もの
まし〳〵「まてよいつぶるへ
「呑りやア大変ざマア細帯でえ
こむ所をあつらりのるぶい
いてそんぶる時へあるりぶる
ぶの長八らうそくの芯を切ると
をうづめる
「ヲヽト承知ヲキ〳〵らうそくぶり
つとコウ吉公付替る蝋燭ハどこにある
「ナニらうそくぶとそこ
ゆやアぶぜへませんぶへそれ
まてく「内へぜくツイてまも
まてくきまし「そ持もの
まし〳〵「まてよいつぶるへ

と時分へとろきりへとそんぶとそこ
なものぶ注ぶ持金せへ内へ「ろうそこ
もぶぶろう出所ろきるせうみお新つきぶでも内へ「ちあう
ぶんぶやアぶ内へこまつとものぶ「アイタ〳〵アイタ〳〵ト
とこふかとこ「コウ長八業を男ふ男ふも紅中ぶやアい
けぶ内へうこらへ紅をつけさせやうう「さあうさそをより外
ふ紗手へぶのさ「ヲイ ナニ吉公ハどこでの旋毛を川岸の
あるう「ア「さあうさ丁家旋毛を川岸でぶぜへまもつけも

せうゝ「繁」アウつけてくでろ〜コウ仕ぶとうらうせうそうり祭り
ゑ
繁ぶようらうの煮ら形て来てくる「呑」コてーが形やせう
つのぐ
序ゐ表式を形み繁ちんいしぶもゐ上ゐ医者ぶあるうゐんゐ
つまてく来ゐせうゝ「繁」そりやア炒ぶ医者ぶ来りやア一も二
もゐくそんゐくとうぐ出若労ゐぐ〜コウ仕伝兵ゐも一如
ゐ形ぶようらうちつとも早のぶ「仕」てさうく〜ゐせうト尻
ひつくうぶてくうぶくうゐふうち「鼠」アイあるりゐをよトさをて
さくて形をつけるゐふるうゐいとぶぐどとくふをくりゐくまゐ



ハまもくくうくむゐ豆繁ハ豆ハとうるぐ洗ゐをぶ
つのぐ物をさをりて炊抱ゐる「ア」ゐくくアイタくもう
どうくもうゐうゐいてりアノ豆ハさんくうせうゐうてふど
うも肉くハ形ゐまうもゐのくくアイタくアノ鳥鞭ゐ親
ゐ鞭ぶあるくくゐ子そこまぐ形くくくゐ子アノてせうゐのトゐ
をくくゐくゐのををつき「む」どうぐ鳴ゐ鞭を紙張さんゐでも
くゐのんぐいもくくひゐくゐゐ子アイタくく「豆」ハアそりやアナニぐうさ
もゐつぐモノ且形くゐのをまをせうゐ子「繁」さうさのうまくくかど

ぢやァ牡丹そこぶまそこうろうァ
ハイイエどうぢそろ
くやつてのうこへやうくどうぢ
ぢ形へやまへ
とうくく
そんのうコウ言公臣若学のぐちちとと学鈴をべさう
いろくまくんの
エイうくとまりやくくとうて
拍子ぐ
ごぜくまままくくあるとべようごぜくまへがやりやァどごぢぐ
つくもくまやせうトうもをしうり博打くつるぎ
ふまりやくく
どうぢやうり同じやうもの
ハイどう
もいけませんてイタくく
まくと挑灯ぐくくのとどうふ



ものごらう附智ろ長八
イエ吉公ふさうのひまくろ
蹴そくをつまそまます
べくぐうとしバ今吉公ふ蹴ちくをとのそやァようくと
ぐくぐうみるをくそどとしうァ手ちやァもけの消る
と大変ごそまてべぐごろつのくまくとドル一寸
ろくくくまやせうやりとくくがとまそるやさ
ごろうそんのうそやくくろくくまの
ハイ又吞つくる
伝吉も坊ごあうの人のウつ序ふそろうふるぐごろうろ早

く事いとしらくこん極く「ヲツト」呑こゝろゐ知のゆそん
ゆうちゝのこと仕くゝ其事ましトいそつぐ出ゆけどもまゞ
ひとりもうゝ事くゝぞおもうまハゝるゝきいきを注きうゞゝ
「アレいつをひりゆ仕よアイタ〳〵あゆゞ仕光ゆまゝくゝ
さいゆゝよつひゆゆい疫ゞ仕苦労ゆけまゝゝこゝ
ハ病ゆゆいゝゝまゞゞいまゝんがあゆゝハ形角ゆゆ
ゝこゝゆゆ出ゆゝこゝのゆゝとんゞ仕危ゆでアイタ〳〵ゝこゝゆ
ゆ食の毒ゝゆゞゞこゞいまゝゞどうゞ悔りゝゆゆゞゞ後の



如をつよくゆゝてゞゝこのまゝ「ゆんのくゝこんゆ時ハ心
ゞきひハゝゝゝゝんゆドゝくゝゝゝゝ

はのあるまくやらごそ医者を買て来るとも薬を連て
くるとも先まづいつたんみ又名のうるの時アありやアさも
〳〵トおむのとく口をよせてコレ〳〵おむさん家を志つり持ておむさア
んそ情ないお事ゞおむさん〳〵アくみんふしても
とやつこのごまとことわどうも仕やうが白く又豆八まぐ仮
をもるどうやあ左郎ぐ幅帽ハ変さうなものごふいな
〳〵やつらごコレおむさんん家ゞつる白くいむさアんトよくど
とくもうく〳〵わ家のつくやうもみきやふわ繋ぎあ

まりそあうを子ふ〳〵盃さまりの水を徳口ふを
くひあげく〳〵葉〳〵アア〳〵葉のうりふちの水でものまして元
やうトおむの口へまんとをまでも歯をくひ志ぐりくいろ
うを志のうぞいうぐハせんと途方ふくまつぐきろと名ハ思
葉〳〵くまとひ〳〵水を我口ふふくくおむをぐうと抱わげ
て口うう口へ口うつ〳〵ふへ口ぐまぐうぐやぐうくりと喉を通り
〳〵やうを西条〳〵おむさアん家をさつうふ打うをくおむさん
〳〵トゝ義理とうく喉とうまぐハおむハとちまち目を元

ひらき繁三郎の兵を[illegible]ゆつとり笑ひ「繁さん姫様
[illegible]ぐ[illegible]ます〜今のハこんな虚ごゝろいまゝよりハ
ハまと〜繁三郎ハびつくり「エヽト困」身をそらせあまり
のゆふあきまとて兵を[illegible]ゆめく居たり〜が繁「そんなら
今のやうな意を[illegible]つけてもこんな虚ごゝろいつゝりうトせろこむ
ゆどおもハゝとつき「サアびつくりあきゝハ世ゆつとも、お復もお
立ちあきハませうがとて[illegible]の中をどうぞ嘗く〜ごさい
ます〜こんなゆをゆーまま〜こゝあつうゆ〜い女ごと思〜

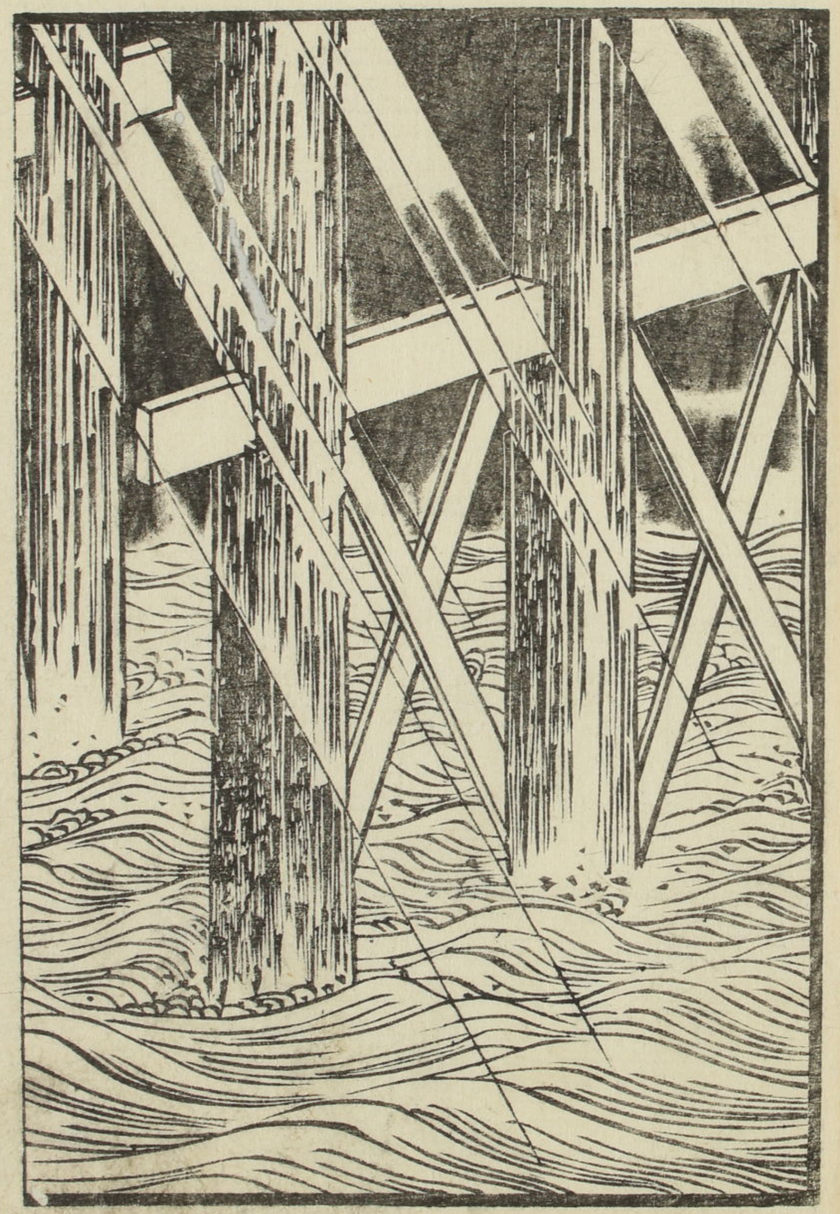


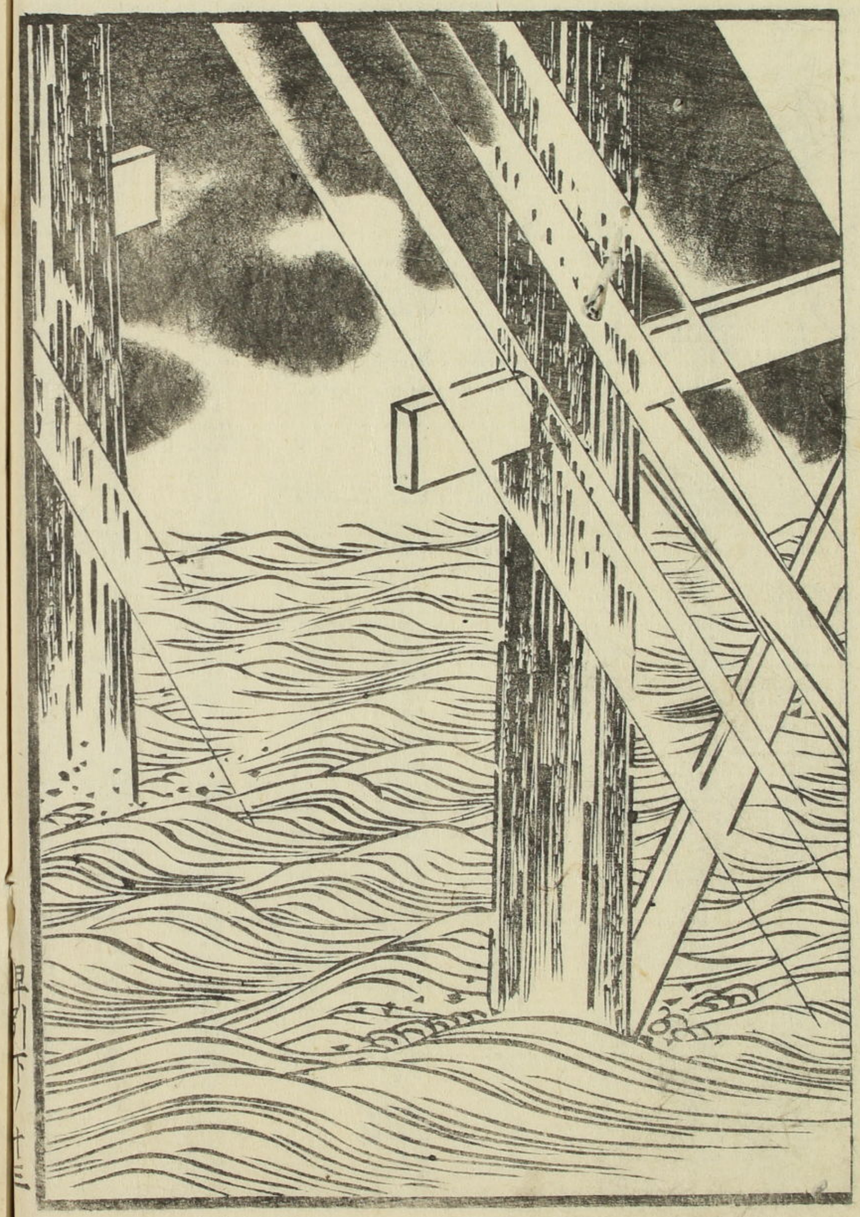
ゆ〜ませうが和〜いゆ日外ゆりあゆこのお婆
ふつとお見初ゆまゝてゆうゆけても書てもお新が見わつき
義ふ[illegible]ゆど[illegible]ゆつむふあまる[illegible]の中のせの[illegible]
ゆを二度までも無ふ書てあげまゝをマアお情ゆい封
も切らぬを怪お返〜あきいまゝさもお嫁公さんのあゆ
お分ゆ兵庫世話とゆもおりひませんがあゆさも兵の情態
を庫ぬ〜ゆのでふあゆ〜・俗ふゆ〜ぬハ浮世の義理
あきゝあうとゆ思ハきまとゝゆ〜歩ふゆいお返ゆ〜ぐも

ぐどさらまーしーとうとうとてもを丈をおぼめりーとうく思へ
きう瀬もござらませうがいらぬハいのふまもとゆうい返ゆ
きうぬそまこゆふふどうあきうめても言まうせめてハ一変
おくわい見ふうつく掏の中をいおちうせゆまもとうりめと
訳きまきゆ形ぶけーこそのい蔭ゆう思ひもようぞあるこ
と一ツ私ハ居てもこんゆが例ふをりゆうう沢さいお話
十さまぶそまつうとと思へつきめちぶて親つと疲のま
似こんみせつゆいあをーくひのさけをおちうせゆまも



女の身ぐわうまもゆの虚ひうりと思ーめーまもうが邪
ふまゆうもござらませんゆ多おごゆーゆまも食ハゆのけまど
接ゆハ今の虚少イハ掏をい幕ーゆまつく悟幕ーくい下
きハまート始終をうう江車繁ゆ多ハと言ハ絶まとと思へ
ちうまくいゆハ知ぶー一ト通りゆてハひるぐくまゆぐとざゆ
まふゆ中ーとと言ふを言うげ繁ゆうどとてーのゆうみ
二戈殊郷を虚ゆも掏ーくん自まうハ賊ーくゆうつく
どうまるゆのうまてづきまくゆも代ゆの通りいちゆふ





厄介もあり家中なるゆ仕ごとをとても来ハとげも
まるいかとぶひわ普労をのとあるぞろりぐ御ゑをてり
笑ふまてりてハ恥うくもありかうくもうもちる
おまへの志をうるく宮わやアハもの人ぐ浮世の義理
や何や彼や仕ふうぬぐ襲の通りちの乃理を解ける
くいのまでも人ぐ縁ゆきもうとあきうあくんなさう
あやア恨ごよコウ食点ぐいろうちるきんトいうをを
つりぐうちゆぐあわろりくとおもハ見わ演出ものとで

どざりまをあるのあつ〜ゆるかとまわをとしも世
ゆりぐどざいませんまをりとあきうめりと繋ウそん
ゆ〜今いつとるを世とけくう八ハイちつとも未練
のとまませんおさ〜ぐでどざいまをトいふより早く吹
の中へとびとまんとまるゆをあてうとめ繋ウをめつきう
ゆどうをる家どゆきうわとまかう歩ん〜てうとをう
も人ぐマア身をゆげやうくふハどういかなかとろきんけうう
人るゆを去るのごトとぐめうをとく注ぐをふうう〜ぐう

いふ音ごとハ御なれなのあり〻けれ〻しるをあるを
とゝぬ古時せゆ〻とのふかゝ代さんわ義理さ〻〻しやと
おろ高雪のハ世世理もあ〻〻あるこのはく〻ゝんこ高るま
いづ戸の建〻もあ人のはり〻このるを待で間く〻一人
いひ二人いひ〻〻おもぢうまてゝろ解をうゝてゝろ洋
ぎんさまてゝどの面さ〻〻〻〻人とつき合ぐ生ませう
その生和をさ〻もとり乱ぐ若男を助るひゝもあるさ
るハ郎〻おう〻〻未練ハ微塵ものと〻もせんトふりそ



ぎ〻〻又乱ぎんぞあり〻〻繁そ来ハあわ〻〻抱きとめ
繁「ヲそ」おめ人まマ時さけのひ〻〻〻ふ未練ぐのと〻ぎば世る
ふ男ハい〻もあり〻んみちのさる弓等をあ〻ヒと〻
の吳えふつ〻〻んみさうれまだとんみ安ぐて〻時和よ
りやア三流の男をひと〻ぐさ〻〻未練ハもん人の為ふ
るゆうみトいをもきるぬ「イエ〻〻さ〻どんみふ〻〻
ゆ〻ても外ふ屋〻〻ハぐゆ〻もせんいまゝさんみきゝハまて練
ふの繁〻〻〻ぐぐりませう南洋ぢとぐぶ〻トふ芸居をきハの

とめてもとまらぬ新久世の繁き中をさまたげ岩木ふ
らぬうくまぐくまでふ者〳〵不便といはんバ拾元ぞろ
と吹出す無風ふ色もそぐろふときめきく末始終ハとも
うくもうる美人をこのまゝふ捨ゝ男のあるべきとこち
まちうる色の内紅をそめ〳〵ぐりとぞうひのまでめとうのり
で是非もなく〳〵そもそもまでふ思ひつめく恨ぬぐ金
と者〳〵どうくもく文ぞふめるまゝ山ゝの色の濃ゆう
ふマアたも右も者うくうくもく縁を入ハきうん〳〵



そんなうアノ時とぶけく思ひをたくくくでまくまたち
ヨこうまくくのといはせくまくもく美ひなるかぐらやアどぐ
ませんうく〳〵おもくも疑ぶひこんなうくくく者とユテ
もひの和の中釈迦でも捨くまるものう今のこんが
実なうう金ふくくても般〳〵やアまくヨヤでぶつくく浦て
本ぞ〳〵そんなういうく今欲ようう二世も三世もうくうれ
丈婦〳〵エそもぐやアどうやうふ千代の義〳〵義望ぐ
れとおうく〳〵ものうもうとくハもうり身を投ゝ〳〵義望と

へちまもいろ〳〵ゆあ[illegible]つのくさぶひの[illegible]を[illegible]
あるこのち[illegible]だりアレこのさう光りまゝとト繁茂ふ
ひつくり抱きろくとんのひろしふ桃灯の吹りはきえく
きんの閑[illegible]もぞろ〳〵。面のまぶくくどろ〳〵
繁[illegible]フリヤとそつろく吹くまと見こそりんふ二人ぶ縁を結ぶ
の雷さま[illegible]そうまていトふく〳〵どふまもきびしきいろづちの
二人ハ美中ぐ[illegible]てんちもふぐさろ〳〵ぴつまり
盛衰栄枯娘太平記操早引下之巻終

揚太真遺傳
精製桐の箱入
一廻り
百二十文

處女香

そもゝ此御薬ハ本朝無類の妙方にて男女ハ限らず顔の艶をうるはしく
し生き変りて生まれ出たるかと思ふ功能あり赤色
ゑぐゝきれの業世ふるふく白粉洗粉化粧水油薬ゑぐを製しく皆
あるゝく新の業小ふるいものを功能書ふ[illegible]あれどもその書付の半
分ハ効ふ[illegible]依之此度拙筆を[illegible]
めつぎきえうんげこまハふゝ〳〵たゞ拙ふ麻末ある業ふてハふまこの口一度
用ひるふても忽ちふ功能の野まる妙薬あり一回り用ひるひとハ[illegible]

A13
4449
3



色自然と桜の花のべくなり二遍り用ひらるべし。花の根ふせ元亦の跡も明二重結のめさるる時とるのこうべ。ふきべ。七ぢ。腫物の跡

ちのいしもおしも跡なくしてうるはしくなるべし。諸合。朝起さく顔を洗

ひて粧香をもり迎さるべし。白粉を付るれば色もなく只自然

まふ面の白くうるはしき様ふるまふ婦人方へ及手をさる方用

ぬひても目ふさぎ〳〵美くなる髪法の右ち疑なく洗用ひ拭され真の

美人となりぬべし

為永春水精剤

髪の艶を出し髪結をさる

妙薬 初みどり

あの人ハ髪を洗ハ悪ふあるひ洗ハ髪ハ悪ふ

代三十六文

書物 絵入 読本 問屋 江戸京橋弥左衛門町東側中程

文永堂 大鴻屋傳右衛門

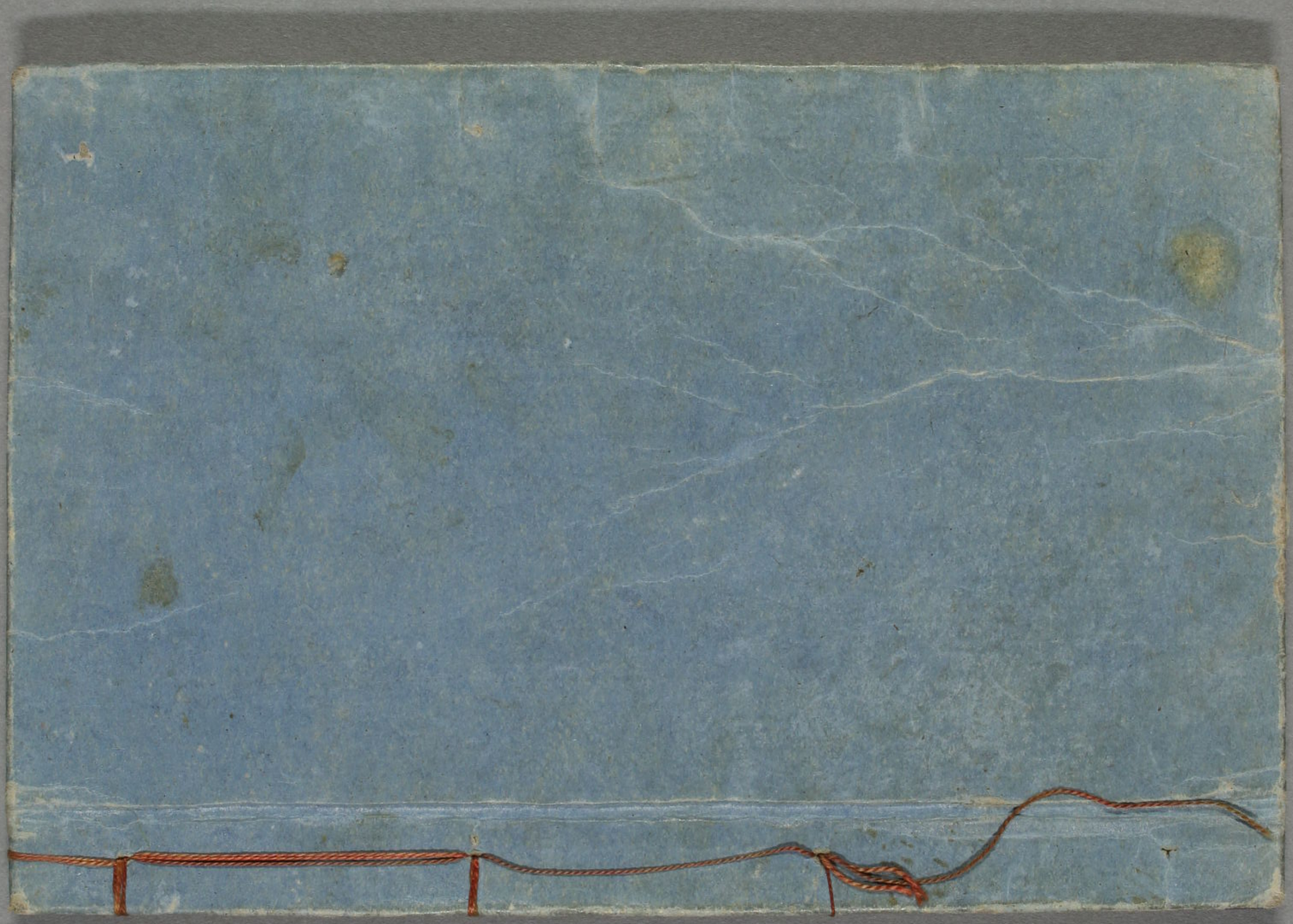
和漢軍書絵入読本 新古賦本類

古本小品〳〵沢山取持仕付申候

格別下直ニ御働 先上中下間不限

多少ニ御求ニ応ず 下ハ板編ニ帯ハ

上

京橋南中通り弥左衛門町

文永堂 大鴻屋傳右衛門